

平成 2 2 年 ふれあい座談会

主 催	ふじみ野市
テ ー マ	大井総合支所の再整備について
日 時	平成 2 2 年 1 2 月 1 8 日(土)・午後 3 時 ~ 4 時 4 0 分
場 所	大井総合支所 第 2 庁舎 3 階 第 1、2、3 会議室
参 加 者	9 0 名
市	市長、副市長、総合政策部長、秘書広報課長

(開会・市長あいさつ 省略) 以下は主な質疑です。

参加者：消防がまったく無い地区もある。消防があるメリットとデメリットがあると思うが、まずそのへんを明確に示して欲しい。

市 長：指令台は本部庁舎に置きたいということがあります。消防で策定した適正配置計画の中では、本部庁舎をこの場所に置くことにより、5 署体制がとれるというメリットをうたっています。合併以前には、本部機能を富士見市にもっていこうとする話が持ち上がったが、その時も旧大井町の議員さんたちが反対したという経緯があります。今回の話は、5 署体制による効率的な運営を図るための考えです。ふじみ野市にその旨依頼があり、議会サイドで検討してもらった上で出している話です。2 市 1 町で負担している負担金については、本部庁舎の建設費も敷地の取得費用も入っていますので、それぞれの負担を確保しつつ、ふじみ野市の負担を軽減できるメリットもあるはずで、この地域については、民地と接しながら区画整理をしたという経緯も踏まえ、活用しながらメリットとしても活かしていきたいと考えています。

参加者：肝心かなめの支所の窓口サービスについてのビジョンが示されていないが、どう考えているのか。

市 長：複合施設となった場合についての児童センター機能は、この話が無くとも考えていたことです。前市長も私も住民の皆さんに不便な思いをさせるためにやってきた訳ではありません。合併の効果を出すためにこのような状況になってしまい、結果、支所で処理できないものが増えてしまった訳ですが、この状況を少しでも改善するため、現在、該当部署において事務の洗い出し作業を行っています。今のシステムの中でも対応できるもの、コンピュータシステムを変更しなければ対応できないものの調査をかけている最中です。そんな中でも、とにかくできるものから改善していこうということで、この 1 2 月から支所において相談業務をスタートさせました。今は、直近ということで、来

年4月から改善できることをとにかかく調査しています。
ビジョンとしては、合併前よりも住民生活が良くなることです。

参加者：タウンミーティングでも、問題が山積していた。その問題・課題を解決していく具体的なスケジュールを示して欲しい。例の市民検討会議もたった2回開かれただけでストップしている。市民検討会議との関連はどうなっているのか。とにかかくスケジュールを明確に。財政が逼迫しているのは理解しているし、大変なものも解っているが、このプロジェクトはどのくらいの借金が必要になるのか、しっかりと出して欲しい。

それから、今回のこの集まりについて自治会を通じて知らせたという話だったが、4割は自治会に入っていないのだから、その人たちにはこの会について知らせが行っていない状況である。そういうことにもっと細かな配慮が必要ではないか。

それと、スライドをやるのなら資料ぐらい提供してもらいたい。

市長：市民検討会議の中でもさまざまなご意見がありました。8月に消防から話があり、本当に限られた時間の中だったのですが、情報が錯綜したり、支所が無くなってしまおうという誤った情報が流れたりしていた部分を払拭する意味でも、とにかかくこの地域を取り巻く自治会の皆さんにはいち早くお話をさせてもらった訳です。この話については支所西側の民地の活用という大変デリケートな問題も絡んでいたのも、情報の伝達方法について大変難しかった点がありました。そんな中での市民検討会議という事で、急を要することも重なり2回の会議ということになってしまいました。市民感情がいろいろ交錯する中、限られた時間で検討しなければならない難しさが本当にありました。また、資料の話ですが、紙ベースで資料にしたことによる弊害もこちらとしては懸念したことがあります。変に誤解が生まれてはならないという心配がありましたが、資料提供のご提案につきましては、今後改善していきたいと思えます。

それから財政の話であります。経常収支比率は依然として良くない状況の中でも、人件費や事務費の削減により合併当初の頃に比べれば改善されてきています。しかし、これから健康福祉や医療の関係で膨大な予算が必要になります。高齢化率も20.8パーセントという状況から、生産年齢人口を少しでも増やしたいと考え、子育て支援策を全面に出したくても財源不足がネックとなっています。国保制度のあり方についても、国の動きを待ってはられない状況です。このようにすべてを並行して進めていかなければならない状況下においても、できることから始めたいという思いで取り組んでおり、併せて明確な

スケジュールも早い内にお示ししていきたいと思えます。

参加者：この12月6日付けで入間東部消防本部へ依頼に対する了解文を出したという話が流れているが本当か。確かこの場所で12月1日に行った会議では反対者がかなりいたはず。それなのになぜそのようなことになるのかわからない。35ヘクタールに及ぶ地権者の同意により開発した、このシビックコアゾーンという理念があったのに、非常に心外だ。

市長：この地域が5署体制を図る意味で最も適しているという見解を出したのは、消防が適正配置計画として調査をした結果であります。このことにより、ふじみ野市が依頼を受けその後、議会への検討を依頼し、検討結果により西側の民地を可能な限り活用するようとの条件付けがされていたので、その条件やその他もろもろの条件を付したうえで承諾をしました。この条件については、今後、実務者会議でつめていこうという段階です。この間においても、こちらの支所の仮設庁舎建設に係る費用等について、議会にはかり議決をいただきました。当時、区画整理でまちのために一生懸命やっていただいたことに対しましては敬意を表しますが、消防も大切な行政の一つであります。一つの行政で消防を運営しているところも数多くあるのです。この話は必ず将来において、市民の皆さんの利益に繋がるものと確信していますので、どうかご理解いただきたいと思えます。

参加者：土地の評価はどうなっているのか。固定資産税を償還してくれるのか。私は猛反対する。

市長：評価が下がるとは思っていません。今ここで固定資産税の話まで及ぶと難しいですが、施設については、必ず市民のためになるはずですよ。

参加者：住民の財産を売る前に住民の意思を聞いてから進めるのは当然のことだ。タウンミーティングの時でも話はできたはず。高畑市長が誕生して1年になるが、こんなことをやっていたのなら、また大井だ上福岡だということになってしまう。町会長たちが白紙撤回を求めたのにそれに対する答えはどうなっているのか。この会の内容もやるごとに説明が変わる。議員たちが了承したとしきりに言うが、そのへんも大変不思議である。うまく取り込んでいるのではないか。それと、12月に出た話は検討したのか。交通事情が非常に悪いこの地域に、消防署などつくれる訳がない。

市長：パブリックコメントや計画づくりに関しての説明会開催は、行政運営手法の一つです。そういった中で今回タウンミーティングという事業

を実施したが、あの時にはこの話はまだ無い状態でしたし、議会をまとめた訳ではありません。議会が反対しているのに市民の皆さんに意見をもとめる訳にはいかないので、まずは議会での検討をお願いしました。議会の同意が得られてから市民の皆さんにご意見を伺うのが通例です。限られた中で、まずは西側地域の町会長さんたちにとということで話をさせてもらいましたが、かなり強い反対意見をいただきました。今日も昼と夜、2回に分けてご意見を伺うことになっていきますし、土曜日や日曜日に各種団体の皆さんの元に伺う機会がありますが、その時にも折に触れこの話をさせていただいています。説明させていただいた人数にするとかなりな人数にのぼっています。説明につきましては、その都度解りやすさを念頭に改善を図りながら実施しているので、若干の変更はあったかと思えます。

12月1日に出た話の検討ということでしたが、苗間の増改築につきましては、早急な問題に対処するための土地の確保が難しいということと、聖路加病院の土地の問題もいち早く5,000㎡の土地を確保しなければならない中では現実的ではありません。この話を断ってしまい消えて無くなってしまいうリスクの方が大きいと考えました。この先必ず、市民の皆さんの利益に繋がるという確信の中、少々皆さんの批判を受けてもこの話は進める意義があると思っています。それと、限られた財源なので受益者負担などをお願いしなければならない状況において、血税を上手に運用していくには行政経費を削減していかなければなりません。

参加者：8月に依頼をしてきて10月中旬までに返事が欲しいというのは、通常我々の感覚からすると考えられない。期間的に短かすぎる話だ。もう少し時間をかけて協議がしたいと申し入れできないのか。消防署の老朽化だって分かりきっていたことなのにおかしい。消防からも説明をもらいたい。1ヶ月半で結果を出せというのなら、それなりの説明をするのが当然だ。議論をするのに適切な期間というのがあるだろう。

市長：10月15日に返事をくれと言われた訳ではありません。できるだけ早い時期に返事が欲しいという話でした。私も消防管理者の一人です。今、住んでいるところを明け渡すということとか、別組織に渡すということではないのです。消防署がこの土地を購入する費用は、当然のことながらふじみ野市も負担するのです。すべて同じ組織の中の話です。限られた時間の中で断るなら断るという選択肢もあったので、議会の方へ検討をお願いした結果、この話は受けた方が住民の利益に繋がるという判断でありました。ですが、本当はもう少し、可能な限り検討する期間が欲しかったというのが本音です。

参加者：もう決まりましたからという中での今日の説明会。そしてこのテーマもう少し素直になってもらって、市長のやりたいことを私たちに本音で訴えて欲しい。土地の問題は民地なども絡み難しかったと思うが、もっと地元への周知を徹底的に行ってもらいたい。

市長：今回のようなテーマはめったにある訳ではないと思います。各種団体の方々とは、いろいろなテーマでお話をする場を設けているつもりです。この外、パブリックコメントや市政への提案等もいただいておりますが、今回のことは本当にレアケースで、その中で感情論的な部分も入り交じりこのような状況になってしまいました。今後、この指令台の更新事業ほど緊急を要するケースは無いと思いますが、基本的には皆さんのご意見を伺いながら市政を進めていきたいと考えています。それから、公共施設適正配置計画を発表したことにより、大井中央公民館が無くなってしまうという噂が流れているのを耳にし、驚いています。このことについては、まったく今現在、決定していることではありませんので、どうぞこの点についてはご理解いただきますようお願いいたします。

参加者：白紙撤回を要求した町会長たちには、承諾したことを伝えるべきではないか。議員の方々もまったく何を考えているのかわからない。

市長：消防に関しては、20年来何も手をつけず放置してきたこと事態、まったくおかしな話だと思っておりますが、今回の話は消防庁舎に関わる大きな話であり、限られた時間で結論を出さざるを得ない状況であったからこそ、議会にお諮りし決定をしました。ただ、今回進めようとしている話は、住民の皆さんに満足をしていただくためのワンステップにすぎないと思っております。議会で決めたからいいんだという話では無いことも分かっています。今後、少しでもこの地域を良くしていきたいというのが私の思いであり、何とか西側を発展させていきたいと考えています。